# 大原沖のフグ始動！ 良型主体で膨らむ期待

## 外房大原港出船

撮影◎本誌編集部

◉当日最大の38センチを釣り上げた風間さん

▲食いが立ったら手返しよく釣り数をのばしたい

★アタリを取って合わせる釣り方と空合わせを繰り返すタイム釣りを状況で使い分け、当日32尾を釣り上げた米田さん

▲カットウバリが2カ所に掛かるとバレにくい



◀釣り場は港からすぐの水深15メートルダチ

▲大原沖にフグ船が集結

▼外房大原ではヒラメと並ぶ人気ターゲット

▲アタリにタイミングよく合わせられると口付近に掛かることが多い
▶シーズンは来春までのロングラン
◀釣れるサイズは25～30センチ級がメイン

▲初日の記念すべき1尾目を釣り上げた杉田さん
▼このサイズが掛かれば手応えは抜群

▲30～50センチ幅で軽くシャクる空合わせは誘いにもなる

フグファン待望、外房大原のショウサイフグが9月1日に解禁した。

取材した利永丸のほか各船が初日に狙ったのは港至近の大原沖15メートルダチ。暗いうちから船中のあちこちで釣れ始めてあっと言う間に全員安打。明るくなってからは潮回りの直後にアタリが集中する展開となり、トップ32尾でフィニッシュ。サイズは38センチを筆頭に平均25～30センチ前後と良型主体の一日となった。

「初日はどこへ行こうか迷いましたが、昨年の解禁と同じ場所にしました。昨年同様、今年も型がよくお土産もバッチリ取れたので、今シーズンも楽しめそうです」と、船長も秋以降の本番へ向け期待を寄せる。

好スタートを切った大原のフグから今年も目が離せない。

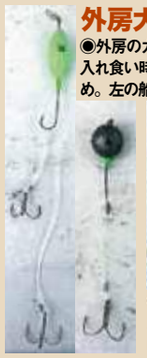
（詳細は48ページ参照）

▲良型フグを掛けたときの重量感がたまらない

◉外房大原港
利永丸・中井春樹船長

### 外房大原のカットウ仕掛け

◉外房のカットウ仕掛けはオモリ25号で2段バリが主流だが、入れ食い時には絡まりにくく、手返しがいい1段バリもおすすめ。左の船宿仕掛けはどちらも船長手作り、船で購入できる



◉エサは冷凍アオヤギ。一人当たり2パックは消費する。エサはケチらずにたっぷり付けよう

▲タックルは全長1.5メートル前後のフグ専用竿に小型両軸リールの組み合わせが主流